



# 川崎大師ロータリークラブ 週報

例会日: 毎週水曜日 PM12:30~  
 例会場: 大本山川崎大師平間寺信徒会館  
 事務局: 〒210-0812 神奈川県川崎市川崎区東門前1-15-10 カーサ石井1F  
 Tel: 044-277-7569 Fax: 044-288-8550  
 URL: <http://www.kawasakidaishi-rc.com/> E-mail: [daisi-rc@eagle.ocn.ne.jp](mailto:daisi-rc@eagle.ocn.ne.jp)

会長 岩井 茂次  
 副会長 船木 幸雄  
 幹事 秦 琢二  
 SAA 猪狩 佳亮

第2169回 (本年度 第27回) 例会 平成30年1月17日 一晴一

●司会 猪狩 佳亮 SAA

●点鐘 船木幸雄副会長



●斉唱 「奉仕の理想」 船山ソングリーダー

年始の乾杯 牛山裕子直前会長



卓話者の紹介 船木幸雄副会長

川崎市立高津高等学校 教頭 関根泰三様  
 川崎市立橋高等学校 教頭 吉田 宏様  
 川崎市立高津高等学校 定時制4年 門馬悠斗様  
 川崎市立高津高等学校 定時制3年 戸塚稀里子様

ゲストの紹介 船木幸雄副会長  
 米山奨学生 金 勁佑君

会員の入会祝い 小林勇次親睦委員長

会員の入会祝い  
 大藪善一会員 平成12 (2000) 年  
 清水宏明会員 平成14 (2002) 年  
 金澤康治会員 平成27 (2015) 年

会員の誕生祝い  
 倉成保巳会員 1月7日  
 森田尊久会員 1月21日  
 須藤 宏会員 1月6日



奥様誕生祝い

島岡栄基会員 奥様 克子様  
 岩井茂次会員 御母様 キヨ子様  
 松井昭三会員 奥様 きみよ様  
 森田尊久会員 奥様 智子様

会長報告 船木幸雄副会長

①台北西門ロータリークラブより「創立41周年記念式典」の案内状が届きました。

3/12「ウエルカムパーティ」、3/13「記念式典」となります。

②4月22日「第19回ロータリー国際囲碁大会」が開催されます。登録ご希望の方は、案内文書を掲示しますので、ご確認ください。

③事務局に年賀状が届いております

湯川ガバナー 役員一同  
 学校法人平成学園 南三陸あさひ幼稚園  
 石川としやさん、  
 台北西門ロータリークラブ  
 年賀状が届いております。

幹事報告 秦 琢二幹事

①今年度3期の会費請求書を発送しました。なお、上記未納の請求も併せてお送りしていますので、1月末日までのお支払をお忘れ無いようお願いいたします。

②2月27日「IM」出欠席が本日締切となりますので、回覧にご回答をお願いいたします。

③他クラブからお送りいただきました「週報」「例会変更」を回覧いたします。

④2月3日 川崎大師平間寺の節分会豆まき参加される方は最終締切が来週、1月24日です。  
 9名申込いただいています。たくさんの皆様と一緒に豆まきを行いたいと思いますので、ご協力ください。

⑤本日13時45分より会議室において「第7回定例理事会」を行います。  
 出席義務者の方はご出席をお願いします。

出席報告

布川 浩出席委員

	会員数	対象者	出席	欠席	出席率
2169回	56	44	29	15	65.91%
2167回	56	45	30	15	66.67%
前々回の修正 メークアップ 1名			修正出席率		68.89%

メイクアップ

林 鶴会員



12月ホームクラブ100%

- 遠藤悦弘会員
- 鈴木幹久会員
- 中村真治会員
- 細谷重徳会員
- 竹中裕彦会員
- 横山俊夫会員
- 渡辺富士夫会員
- 岩井茂次会員
- 鈴木昇二会員
- 伊藤佳子会員
- 須山文夫会員
- 秦 琢二会員
- 牛山裕子会員
- 船木幸雄会員
- 内田省治会員
- 猪狩佳亮会員
- 磯田 稔会員
- 黒澤 穰会員
- 八尋匡彦会員
- 布川 浩会員

12月の出席順位

- 233% 横山俊夫会員
- 200% 鈴木昇二会員
- 167% 竹中裕彦会員、岩井茂次会長、須山文夫会員、牛山裕子会員
- 133% 遠藤悦弘会員、布川 浩会員

スマイルレポート 船木幸雄副会長

横山俊夫会員

今年は45周年、会員一同楽しみながら、当日を迎えましょう。後期も宜しくお願いします。

秦 琢二会員

吉田様、関根様、門馬さん、戸塚さん 川崎大師RCにようこそお越しいただきました。卓話よろしくお願ひします。

岩井茂次会長

①新年、第1回目のホームクラブ例会を福島県での所用のため欠席となり、申し訳ありません。

次週24日の例会と未来計画推進委員会には出席予定です。多数の出席をお願いいたします。

②本日の弁論発表、門馬悠斗さん、戸塚稀里子さん、よろしくお願ひいたします。

本日のニコニコのテーマ

岩井年度も折り返し地点を過ぎました。皆様本年もどうぞ宜しくお願い致します。

鈴木幹久会員、遠藤悦弘会員、牛山裕子会員  
内田省治会員、布川 浩会員、小林勇次会員  
中村眞治会員、磯田 稔会員、嶋崎嘉夫会員  
石渡利治会員、鈴木昇二会員、出井宏樹会員  
水口 衛会員、星野祐治会員、野澤隆幸会員  
黒澤 穰会員、森田尊久会員  
合計：38,000円

委員会報告

社会奉仕委員会 鈴木昇二会員



チャリティーマラソン大会 (2月10日)

参加者1,000名を予定していましたが現時点で200名くらいです。締切が1月25日です。どうかクラブの皆さんもご参加ください。

チャレンジラン400m 3歳～6歳

ミニマラソン1.25km 5歳～小学校6年生まで

親子ペアラン 5歳～6歳+保護者

5km 中学生以上

10km 高校生以上

ハーフリレーマラソン約20km 年齢制限無し2名～10名構成

フルマラソン 15名以下での構成

賞品は私が一括してお預かりします。よろしくお願ひします。

姉妹クラブ委員会 宮山光男委員長

台北西門RCの41周年記念式典の御案内です。

3月12日前夜祭、3月13日記念式典 (5時30分～)

多くの会員の皆様に出席していただければありがたいと思っております。



雑誌・広報委員長 星野祐治委員長

ロータリーの友

6P ポール・ハリスさんの職業 弁護士



次年度幹事 猪狩佳亮次年度幹事

第1回次年度理事会 1月18日? 午後6時 浜寿司にて行います。



卓話者紹介 秦 琢二幹事

門馬悠斗さん 高津高校定時制 4年生

戸塚稀里子さん 高津高校定時制 3年生

卓話

進行 川崎市立高津高等学校 教頭 関根泰三様  
市内高等学校定時制教育振興会事務局担当しています。  
高津高校定時制教頭 関根です。本日はこのような機会をいただきありがとうございます。

日頃より市内定時制高校にご声援ご協力をいただき感謝申し上げます。今年度も卓話にお招きいただき誠にありがとうございます。今回も昨年9月に実施した川崎市立高等学校定時制弁論大会に参加した生徒より本校の2名の生徒を連れてまいりました。その生徒たちの弁論をお聞きください。

その後教頭会を代表して市内高等学校定時制教頭会会長の川崎市立橘高校 吉田教頭より挨拶をさせていただきます。



門馬悠斗さん紹介

高校4年生で出身は南百合ヶ丘小学校、長沢中学校

趣味：読書とまちを歩くことです。

入学当初は消極的でしたが上級に上がるにつれ学校も好きになり4年ではリーダー格として、体育祭では応援団長として、今回は応援賞も受賞しました。

弁論大会も昨年から参加し、今年度は市内でも3位という成績をおさめています。

卒業後はテクノカレッジ東部の精密加工エンジニアコースに進学する予定です。

本日の門馬さんの演題は「選択の自由と責任」です。

弁論宜しくお願いします。

弁論：川崎市立高津高等学校 定時制4年 門馬悠斗様



選択の自由と責任

私たちは常に選択というものを迫られていることを知っているのでしょうか？例えば、あなたは今、私の弁論を聞いています。ですが、聞いていない方もいるかもしれません。私の弁論を聞く、または聞かない。こんなことも一つの選択です。そして、私たちはいつも、自分の意思で選択をしています。誰かに「こうなさい」、「こうやれ」と、言われることもあります。結局の所、最後に決めるのは常に、自分自身なのです。実は私たちは、自由に選択というものをしていたのです。ですが、自由には責任が伴います。簡単な例を一つあげましょう。例えば、あなたは授業中に『早退をする』といった選択をしました。そうすると、その授業に出ないということもなり、その分皆より一つ遅れてしまうことにもなり、授業にも付いていけなくなる原因にもなります。これが、あなたが『早退をする』といった自由な選択をした責任です。私たちの目の前にある選択には責任がセットとなり、迫られているということを理解してもらえたでしょうか？ですが、あなたの選択次第で責任も大きく変わっていき

ます。先程の例も早退というものをしなければ、遅れることはありませんし、予習というものをすれば、むしろ皆よりも一歩早く、先に進めるのです。そう、全ては私たちの選択次第なのです。ですが、選択とは難しいものです。予想だにもしなかったこと、「アクシデント」や数十にも及ぶ選択肢があるからです。そして、どんなに小さな選択でも、今後の人生を大きく変えてしまうことがあります。だからこそよく考え、選択をすることこそが、重要なのです。中には責任を取りたくても取れないことがあります。ニュースなどでよく話題になっている、いじめもその一つです。いじめが原因で自殺をしてしまう方に、どう責任を取ればよいのでしょうか？どれだけ謝っても、どんなことをしたとしても、いじめをうけた本人には届きませんし、もどつてもきません。選択をしたあとに気付いても、遅いことは、いくらでもあるのです。

私は小学生の頃に、私がいじめられていたとき、助けてくれた女の子がいました。ですが、当時の私は、男の子が女の子に助けてもらうことを恥づかしく思い、良く優しくしてくれた女の子を次第に避け始めてしまいました。そんな事をしていると、いつからか、女の子は私の目の前に来なくなりました。不思議に思った私は、その女の子のクラスに行くと、もうその女の子の姿はなく、私の知らぬ間に転校をし、一生会えなくなっていたのです。私は、私のしてきたことを、何度も、何度も深く後悔をしました。『あの時、避けずにいなければ。』『あの時、恥づかしいなどと思っていなければ！！』と、今でも私の頭の中では、その当時の出来事が、終わりが無い悪夢のように、何度も永遠にリピートをされ続けるのです。謝りたくとも謝れない。そんな、一生悔やみ続けることが、もしかしたら私の『責任』だったのかもしれませんが、これまで私は、皆さんに、選択は自由であると同時に、自由には、責任が付いてくるということを理解してもらいたく、この弁論大会の場を借りてお話をさせていただきました。私の弁論を聞いてくださった皆さんには、これからの人生に私の弁論を役立てて欲しいとは思いますが、今後の人生に役立てるも、役立てないも、もしかしたら皆さんの、「選択」なのかもしれませんね。ここで最後に、皆さんに聞いてほしい名言があります。

『チャンスではない、チョイスが、運命を変えるのだ！！』

ご清聴ありがとうございました。

#### 戸塚稀里子さん紹介

学校へのデビューは20歳を過ぎてからと少し遅かったのですが、学校に入ってから積極的に活動し1年から生徒会に所属し現在は生徒会長を務め、学校をリードし大活躍をしている生徒です。昨年は市内の弁論大会でも優

勝し今年は2位という成績をおさめております。部活動も美術部と写真部に所属し趣味は散歩、写真撮影、YouTubeを見ることだそうです。

本日の戸塚さんの演題は「一期一会」です。

弁論宜しくお願いします。

川崎市立高津高等学校 定時制3年 戸塚稀里子様  
一期一会

「一期一会」皆さんはこの四字熟語の意味を知っていますか？

これはもともと茶道に由来する四字熟語で、「何度も同じ人とお茶会を開くことがあっても、このお茶会は一生で一度きりのものである。だからこそ相手に誠意を尽くしておもてなしをしなければならない」という意味が込められています。私たちが毎日顔をあわせている家族や友人、学校の先生とも、言葉を交し合うその一瞬一瞬は一生に一度限りのものです。だからこそ相手を思いやりながら接するということが大切です。

私は小学校の途中から中学校を卒業するまでの長い間、不登校でした。原因はいくつかあるなかで、最も大きかった要因は「対人恐怖」でした。それまでは、たくさんの友達と遊び無邪気に笑いあうごく普通の子どもでした。しかし、時に友達に理不尽なことを言われたり、暴力的な子に乱暴をされたり、困ったことがあっても先生に突き放されることもあり、私は次第に相手の顔色を伺うようになったのです。「相手を怒らせないように」「周りの人を困らせないように」と考えていくうちに、自分の言いたいことが分からなくなっていき、私はどんどん内向的な性格になっていったのです。毎日心の中で人におびえて孤独を感じ、教室内の居心地が悪く感じるようになっていきました。

学校という社会から逃れ、外の世界にほとんど触れることがなくなりました。家で過ごす時間が増え、毎日ネットを見ていたりゲームをしてばかりの生活。買い物や散歩に行くことはあったものの、お店の店員さんに注文



をすることさえできず、直接面と向かって話せる人は家族のみ。友達もネット上にしかいませんでした。同じ趣味を持った人と表情の見えない文字だけのやりとりをして、面倒になったらログインしなければいい。とても気楽で、楽しくて、私は無機質さを感じつつも、これで充分だと思っていました。当時の私にとっての外の世界はそれが全てだったのです。

そんな中でも心のどこかでは、過去の自分を変えて学生生活を取り戻したい。そう思っていた私は、二十二歳という年齢でこの高津高校定時制に入学しました。入学当初、これまでの人間嫌いの自分を変えたいという反面で、馴染めるとは思えない十代の子たちとの年齢差の壁に苦しみました。声をかけてくれるクラスの子たちと笑顔で接しながらも、それにちゃんと返せているという実感はなく、私はこの学校で誰とも仲良くなることができないと思っていました。それでも私は、これまでと違う自分になりたいという一心で、日々を過ごしてきました。

高校一年が終わる頃、ふと、これまでの生活を振り返りました。毎日の授業に、教室での談笑、部活動、学校行事、など。時に笑いあい、喧嘩もし、トラブルにあって悩む時もあったりと、良いことばかりではありません。しかしどれも、この学校にいる皆さん一人一人と、同じ時間を過ごしていなければ作ることの出来ない、素敵な経験と思い出です。人間関係に不安を抱えながらも、様々なことに積極的に挑戦し続けた学校生活はとても充実したものでした。何事も人との関わりありきなのです。楽しい学校生活というのは、人との関わりあいがある初めて得られるものだと思えました。「人は、人と関わりあって生きているんだ」ということを私は強く実感しました。それと同時に、人と直接言葉を交わすことの大切さを知りました。

そして春。大好きな先輩が卒業し、お世話になった先生が離任するという別れ。たくさんの思い出を蘇らせる中で「あの時、ああすればよかった」「こう言えば良かった」という後悔から、言葉を交し合える時間にも限りがあるということ改めて実感しました。それから私は「おはよう」や「ありがとう」という言葉を欠かしません。とても当たり前なことのようですが、そんなささいな言葉の積み重ねから、人との関わり「とき」が生まれるのです。

私は、人と関わりあうこと、言葉を投げかけることが、まだ得意とは言えません。コミュニケーションを交わすことが怖くなる時があります。ですが、「一期一会」の「一期」とは、私たちの生涯。「一会」とは、ただ一回の出会い。出会う人とは必ず別れのときがやってきて、今後もう二度と会えないかもしれません。一生涯でたった一度の皆さんとの出会いを大切に、「あなたと出会えて良かった」と思えるような、そんな高校生活を送りたいと思っています。

皆さん、一生に一度の出会いを大切にしながら、共に高校生活を過ごしましょう。  
ご清聴ありがとうございました。

川崎市立橋高等学校 教頭 吉田 宏様

## 定時制教育の現状と振興会の活動について

このような機会を設けていただきありがとうございます。

毎年毎年定時制教育への協力ありがとうございます。この場をお借りして本市の定時制教育の現状並びに今回ご披露させていただいた定時制弁論大会を主催している定時制振興協会の活動について説明させていただければと思います。

ご承知のとおり川崎の定時制教育は戦後高度成長期昭和23年に勤労青少年に後期中等教育を保証する期間として開始されました。その後昭和から平成の時代と変わるなか定時制教育もずいぶんと役割を変えてまいりました。従来のように勤労学生のための機関という意味合いは薄れ小学校、中学校時代に不登校を経験してきた者、経済的に困難な家庭に育ち義務教育の9年間十分な学力が身につかずそれでも高校で学びたいと望む者、何らかの課題を抱えて高校を中退し学びなおしを試みる、様々な理由から全日制課程とは異なる形態で、などなど今日の定時制高校はそうした様々な困難を抱える者たちのセーフティネットのような役割を担う場所へと変わってまいりました。

本日皆様方のテーブルに「よびかけ」というタイトルの冊子を配らせていただきました。昨年度川崎市内、定時制高等学校弁論大会の弁論をまとめたものです。ご一読いただければ、生徒たちがどのような思いで高校生活を送っているか垣間見ることができるかと思います。

定時制教育振興会ですが元来親元を離れて勤労に勉学に励む定時制生徒の活動をPTAに変わって支援する組織として定時制高校開始後間もなく全国各地で発足しました。ここ川崎市でも当時勤労青少年を受け入れる川崎市内の企業を中心に昭和36年にスタートしました。

発足当初は川崎市内に定時制高校は11校、生徒数6,000人を超える大所帯であったとかがっておりますが、高度経済成長期の終焉とともに勤労青少年が働く企業が激減し、振興会の構成メンバーや財政規模が大きく縮小され現在では事務局の担い手も企業から定時制高校をもつ公立高校の教頭会へと移ってまいりました。

今年度より川崎市立商業高校定時制課程が閉校し川崎市内では4つの川崎市立高校、2つの県立高校と併せて6つの定時制高校に現在1,284名の生徒が学んでおります。今年度は定時制教育70周年の年にあたり全国的にも記念事業が行われました。本市も定時制70周年にあたり記念事業として本市定時制教育50年から70年の20年の記録をまとめた定時制教育70周年記念誌及び振興会報特別号を発行させていただきました。

これらの記念事業の予算にもこれまでのご支援の一部から支出させていただきました。



## 謝辞 船木幸雄副会長

門馬君、戸塚さん声が良いです。びっくりしました。次に姿勢が良いと思いました。横にいるとよくわかります。

内容が非常に考えさせられ、選択と一期一会で、私選択とは今考えてはっと気がつきましたが反面反面に出てくるような気がして、去年は枕の下に携帯をおいていましたがロックを掛けるのを忘れ大変な思いをしたことがあります。

一期一会もそうです。あまり考えないで人とお話していることが多いのですがその一瞬を大切にしたいと思っています。

本日はどうもありがとうございました。



## ●点 鐘 船木幸雄副会長

生徒数減少や学校規模の縮小こそございますが様々な困難をかかえつつ、定時制に通い学ぼうとしている生徒たちの活躍を保証するためにこの会の果すべき役割は今日においても決して小さくないと認識をしています。

9月弁論大会、夏の各種運動競技会や、技術講習会、現在アゼリアのギャラリーで開催している定時制生徒の作品展などといった定時制高校生たちの学芸活動や体育活動を奨励し生徒たちの生き生きとした教育活動をサポートしていきたいと考えております。

今年度は体育活動において本市で5つの学校から全国大会出場を果たしました。市立川崎高等学校では軟式野球部が初の全国大会出場、橘高等学校では男子バレー部が昨年に引き続き全国第3位、バドミントン部でも女子個人戦で全国3位という成績をあげています。こうした活動も財政難の今日、市の援助が削減される中、会員の皆様の援助無しではなかなか立ち行かなくなっております。大変図々しいお願いで恐縮ですが皆様方におかれましてもこのような定時制教育の現状をご理解いただき、是非とも振興会に御入会いただき今後ともあたたかいご支援がいただければとお願いする次第であります。

皆様のテーブルに入会の申込書と依頼書をおかせていただきました。御入会いただけるようでしたら、これらの用紙をご利用いただくか、この後直接事務局の高津高校の関根教頭に申し込んでいただければと思います。先ほどご紹介いただきました弁論大会の記録、よびかけと共に定時制高校70周年振興会報特別号を少数おかせていただいております。ご興味のある方はぜひご一読をいただければと思います。

本日は大変貴重なお時間をいただき大変ありがとうございました。

川崎市立高津高等学校 教頭 関根泰三様  
生徒にとりまして大変貴重な時間となり大きく成長する機会となりました。感謝申し上げます。

日時：平成30年1月31日(水)は  
通常例会です。



八尋 匡彦/森田 尊久/星野 祐治

11月度 出席報告

氏名	例会数	ホームクラブ	メアアップ	出席率	ホームクラブ100%	備考	氏名	例会数	ホームクラブ	メアアップ	出席率	ホームクラブ100%	備考
寺尾 巖	3	1	0	免2回			船木 幸雄	3	3	0	100	○	
布川 二三夫	3	0	0	免3回			飯塚 元明	3	0	0	0		
長島 亨	3	0	0	免3回			沼田 直輝	3	2	0	66.7		
島岡 栄基	3	0	0	免3回			出井 宏樹	3	1	0	33.3		
遠藤 悦弘	3	3	1	133.3	○		内田 省治	3	3	0	100	○	
鈴木 幹久	3	3	0	100	○		永松 慎太郎	3	0	0	0		
宮山 光男	3	2	0	66.7			大崎 克之	3	2	1	100		
野沢 隆幸	3	1	0	33.3			猪狩 佳亮	3	3	0	100	○	
林 鶴	3	0	3	100			金澤 康治	3	0	0	免3回		
安藤 賢一	3	2	0	免1回			松本 和晃	3	1	0	33.3		
小泉 敏和	3	0	0	免3回			松井 昭三	3	2	0	免1回		
嶋崎 嘉夫	3	1	0	33.3			磯田 稔	3	3	0	100	○	
炭谷 博功	3	2	0	66.7			黒澤 穰	3	3	0	100	○	
中村 眞治	3	3	0	100	○		船山 佳則	3	2	0	66.7		
細谷 重徳	3	3	0	100	○		星野 祐治	3	2	0	66.7		
竹中 裕彦	3	3	2	166.7	○		碓 茂昭	3	0	0	0		
久保 博和	3	0	0	0			八尋 匡彦	3	3	0	100	○	
倉成 保巳	3	0	0	免3回			森田 尊久	3	2	0	66.7		
大藪 善一	3	0	0	免3回			布川 浩	3	3	1	133.3	○	
竹田 正和	3	0	0	0			須藤 宏	3	0	0	0		
横山 俊夫	3	3	4	233.3	○		田中 伸介	3	0	0	0		
石渡 利治	3	2	0	66.7									
渡辺 富士夫	3	3	0	100	○								
布野 眞治	3	0	0	免3回									
清水 宏明	3	0	0	免3回									
矢野 清久	3	2	0	66.7									
岩井 茂次	3	3	2	166.7	○								
鈴木 昇二	3	3	3	200	○								
伊藤 佳子	3	3	0	100	○								
水口 衛	3	2	0	66.67									
須山 文夫	3	3	2	166.7	○								
秦 琢二	3	3	0	100	○								
小林 勇次	3	1	0	33.3									
牛山 裕子	3	3	2	166.7	○								
坂東 保則	3	0	1	33.3									
							出席率	83.37%					

2017-18年度は  
財団設立50周年

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース



# ハイライトよねやま

2018.1.15

Vol.214

## 第3代よねやま親善大使を募集します！

「よねやま親善大使」は、日本全国のロータリー地区大会・セミナー・例会などで、米山学友の代表としてスピーチすることにより、当事業への理解を広める活動をしています。これまでに、初代2人、第2代3人の計5人が選任され、このたび、「第3代」よねやま親善大使を大募集します。対象となるのは、日本国内在住の

米山学友（2018年6月終了者含む）で、任期は2018年7月からの2年間。応募締切は、2月19日（当会必着）です。詳しくは、当会ホームページの「News & Topics」欄からご覧ください。皆さまの地区・クラブでお世話いただいた学友で適任の方がいれば、ぜひご推薦ください！（学友ご本人からの応募が必要です）

## 2018-19年度地区米山記念奨学委員長セミナー開催報告

12月7日、次年度の地区米山記念奨学委員長を対象とした第1回セミナーを開催しました。

午前、小沢一彦理事長からのあいさつに続いて、第2720地区前委員長の秋吉実氏による講義「委員長を経験して気付いた米山事業の魅力と可能性」と、第2800地区委員長の大久保章宏氏による事例報告「理解促進から寄付増進へつなげる」、続いて午後は、テーマ別のグループディスカッションや質疑応答、選考・学務委員の井原實氏からの講評など、盛りだくさんの内容で行われました。アンケートでは、「初参加だ



ったが学ぶことが多かった」「地区では聞けない米山活動について多くの課題解決のヒントが得られた」などの声をいただきました。第2回セミナーは、6月15日に開催予定です。

## 寄付金速報 — 今年もよろしくお願ひいたします —

12月までの寄付金は前年同期と比べて5.7%増（普通寄付金：0.9%増、特別寄付金：7.6%増）約4,900万円の増加となりました。7月からの累計寄付額が約9億円と、引き続き好調を維持しています。

「2017年度 下期普通寄付金のお願い」を当会から、また、ガバナー事務所経由で全クラブ

へ配信しました。普通寄付金は当会事業の重要な安定財源であり、国内全クラブから普通寄付の確約をもらうことを条件に、財団法人設立の許可を得た経緯があります。当事業は全地区が参加する「多地区合同活動」であることをご理解いただき、今年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

### さまざまな寄付のカタチ

高崎北RCの 故藤井秀久様（第24回米山功労者メジャードナー）の奥様から、12月に500万円のご寄付をいただきました。藤井様の娘婿にあたる樋口哲雄様（高崎北RC）にお話を伺いました。

義父は、家族、会社の次にロータリーが来るほど、熱心なロータリアンでした。生前、米山への寄付にも熱心だった背景には、家が貧しく高校に進学できなかったため、「向学心に燃える若者を支援したい」との強い思いがあったようです。その遺志を汲み、義母は「教育に関わる団体に遺産を寄付したい」と、このたび財団と米山に同額を寄付しました。入会歴の浅い私も、義父の遺してくれたロータリーとの縁を大事にしていきたいと思ひます。

## 台湾米山学友会が総会を開催



12月2日、台湾米山学友会の総会が開催され、日本からロータリアンら41人を含む、計150人が集まりました。今年は同学友会の社団法人設立20周年の節目を迎え、当会小沢理事長を含む役員も多く参加しました。

総会では、歴代理事長、および当会役員への感謝状贈呈や新会員の歓迎セレモニーのほか、陶芸家として活躍する学友・張義明<sup>ツァンイーミン</sup>さんの作品のチャリティオークション、各種演奏が披露さ

れ、学友会が支援する日本人奨学生も流ちょうな中国語で日頃の感謝を述べました。

同学友会では呉憲璋<sup>ウーシェンツァン</sup>会長のもと、さまざまな改革が行われており、毎年発行している会報にはより多くの学友が編集に関わったほか、扶輪米山会のシンボルマークが一新され、マークをかたどったピンバッジが全員に配られました。総会の記念品、ミニチュア自転車の置物は、同学友会が支援する台湾彰化刑務所で作られたもの。呉理事長は「時代を物語るレトロな自転車が当時から現在へ辿り着き、ロータリーを象徴する歯車からの原動力を受け取った私たちが、これから将来へ向けて駆動していきたいとの思いを込めました」と、語りました。



## 秋の叙勲で学友が旭日小綬章に輝く

平成29年秋の叙勲受章者が発表され、外国人叙勲としてなんと2人の学友が旭日小綬章に輝き、12月にそれぞれ日本の在外公館において勲章・勲記の伝達式が行われました。

 朴明欽<sup>パクミョンフム</sup>さん（韓国／1983-85／京都東山RC）、元・釜山韓日文化交流協会理事長。日本・大韓民間の友好親善及び相互理解促進に寄与。



“同志社大学の修士課程で学び、さらに博士課程まで進むことができたのは米山記念奨学会のお蔭だと存じております。韓国では大学教育や学問研究を中心としながらも、日韓両国の相互理解と友好親善を図るため両国交流団体にて社会活動を続けています。日本での留学の際、貴奨学金を頂いたこと重ねて御礼申し上げます”

 ジャンチブ・ガルバド<sup>ジャンチブ・ガルバド</sup>ラッハ<sup>ラッハ</sup>さん（モンゴル／1998-99／山形北RC）、新モンゴル学園理事長。モンゴルにおける日本式教育普及及び日本・モンゴル間の相互理解促進に寄与。



“私は、皆様方への感謝を胸に恩返しをしたい一心で努めてきただけですので、この章は皆様方のものです。この勲章を受章したことで新たな活力がわいてきました。これからもみなさまへのご恩を倍々返しできるように力の限り努力していきます。どうか温かく見守ってください”

### ご寄付の確定申告用領収書について



HAPPY NEW YEAR 2018

昨年1年間（1～12月）に特別寄付をしたすべての方、もしくは普通寄付金の領収証を申請したクラブには、1月末日までに（確定申告に間に合うように）、認定証の写しが付いた申告用領収証をロータリークラブ宛に送付します。